

臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報
平成22年(2010)新春号



雪の本町通り 昭和38年(1963年) 竹内 敏信 監修 林 寛 写真集 より
町の商店街も雪の下に埋まってしまった 雪晴れの間に 人々は一斉に用事や買物に出てくる

東京同窓会の現状と夢

東京同窓会会長 鈴木 多喜男（高4回）

会員の皆様、新年おめでとうございます。
日頃は、会員の皆様、幹事の方々のご協力を得まして今日まで参りました。誠に有難く、感謝申し上げます。

現在、会員名簿に掲載してある人数は470名程になりますが、死亡、引越し、転居先不明などの変動が常時10名前後にのぼり、事務局及び幹事諸氏のご尽力により、常に更新するよう努めております。皆様からの貴重な情報がございましたら、是非、事務局及び幹事の方までお知らせ下さいますようお願い申し上げます。

毎年開催しております定期大会も、今年で53回目となります。私が会長を引き受けて直ぐの平成19年6月に開催した第50回記念大会は、佐藤峰雄先生のピアノ演奏会を催したことも功を奏し、総勢127名が集結したことは、非常に印象深く記憶に残っております。その後、昨年の52回大会も111名となり、今後とも100名以上の参加者数を維持したいものと、幹事会では諸々の案件を吟味し、苦労しているところです。会員の皆様にも、ご理解いただきまして積極的にご参加いただきたいものと心底より念願して止みません。

母校本部の同窓会も、9回生の相田氏が会長に就任されてから一気に若返り、20回生の若手が強力に活動されて、総会の出席者も毎回100名前後を数える盛況ぶりと活況を呈しているようです。

これらのことを併せ考えてみると、総会に於いていかに魅力的なイベントを取り入れるかが一つのポイントになると考えます。もう一つは若い会員の方々にいかにご参加いただけるか、これも大きなポイントになるであろう

と思います。少ない予算で最も効果的なイベントは何であろうか。楽しくて有為な催し物などを今後とも情報を収集し、知恵を絞って行かなければと考えております。また平成20年に行った、1100人を越える高校11回卒以降の同窓生に対する反応の精査と勧誘は、非常に手間暇がかかる作業で、今後とも幹事の皆さんには、継続して会員拡大の努力をお願い致したく存じます。

東京同窓会の情報を発信し、母校、会員同士の情報交換をしながら相互の意思疎通や結束を固め発展するために、東京同窓会では会報「臥龍が丘は緑なり」を発行しております。今号で48号になりますが、創刊号は昭和62年6月27日に日本鋼管高輪クラブで開催された支部大会時の発刊です。その中で、佐伯益一初代会長が同窓会に対する理念を述べられています。

「同窓会は同級会の積み重ねによって成り立つとの観点から同一学年の横の連絡が充分とれ、学年幹事が同級生の消息を十二分に把握出来ることが必須条件であり、同窓会が魅力ある集まりになるよう会員各位の格段のご協力を願ひ同級会の活発な動きを期待するところである」。

「重ねて言えば同窓会は単なる親睦会ではなく、母校を出て関東地区へ上京してくる若い後輩達のため、喜んで相談に応じ、手をさしのべる会でなければならぬ」。

東京同窓会は、以上の考え方を基本に運営されて来ましたが、今後とも皆様の更なるご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

本年も世の平安を願い、会員諸氏のご健勝を切に祈念申し上げます。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

◎副会長 斎藤 和男（旧中33回）

◎副会長 杵渕 政海（高2回）

◎副会長 渡辺 八郎（高3回）

◎副会長 金子 鶴男（高5回）

◎副会長 深見 洋子（高7回）

◎幹事一同 46名

◎会計監事 佐久間英輔（高6回）

◎総務委員長 郡司 正大（高16回）

◎財務委員長 塚田 勝（高8回）

◎広報委員長 大橋 貞夫（高10回）

◎事務局長 石黒 四郎（高9回）

——表紙の写真について——

村松本堂にお住まいの林寛さん（82才）が、昭和中期に撮りためた町中の様子、農村・山村・漁村の厳しい暮らしや自然災害と闘う人々の姿を林寛写真集「あのころの追憶」として2001年（平成13年）に刊行された。林さんは、1949年に教員となってから20年余り、村松近郊や県内各地にでかけて人々の生活を夢中で撮り続けられたそうである。定年後に再びカメラを手にし、2000年に豊栄市の「ビュー福島潟」で開かれた「日本海写真学校」に参加され、校長を務められた著名な風景写真家、竹内敏信さんに当時の写真をお見せしたところ「時代が見事に映し出されている」と刊行を勧められた。写真集には1955年（昭和30年）から1976年（昭和51年）まで撮りためた600本以上のフィルムから100枚余りが竹内さんの監修で収められている。林さんは、「当時は生活が貧しくても心は豊かだった。写真が、それを見直す一助になれば幸いです」と話している。

ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。同窓会員の皆様におかれましては、お元気に新しい年をお迎えのことと存じます。日頃より村松高校の教育活動に多大なご理解とご支援を賜り、心より厚くお礼を申し上げます。おかげさまで村松高校の教育活動は順調に行われておりますので、どうぞご安心ください。また、昨年は第52回定期大会にお招きをいただきまして、大変ありがとうございました。多くの同窓会員の皆様と楽しいひとときを過ごすことができました、思い出の一日とすることができました。

私は昨年4月に校長として着任しました。早いものでもう1年が過ぎようとしております。着任を前に前任の小島校長先生より引継を受けました折り、創立100周年を迎えようとしているとお話を伺い、その歴史の長さに感嘆したものでした。かつての旧制中学から続いて、多数の優秀な人材を輩出した学校であると前々から聞いておりましたが、改めて100年と聞きますとさすがだと思わざるを得ません。村松は城下町であり、かつて軍隊が駐屯して軍都とも呼ばれたそうです。私はまだ村松の歴史に不勉強でありますので、詳しい方から少しずつ教わっていきたいと思います。

私は新潟生まれの新潟育ちでありまして、遠いところで過ごした経験がありませんでした。教員になってから

村松高等学校長

小形 賢治

京同窓会



も自宅から通える範囲の学校にばかり勤務しておりました。管理職になっても新潟市内の学校であったり、その後も県庁で勤務したりということで、自分でもおかしいくらい自宅近くでばかり過ごしましたから、視野が狭いなど自分でも思っておりました。校長になって初めての学校が前任地の相川高校で、私が初めて遠くへ赴任した経験となりました。

相川高校も旧制中学から始まる歴史ある学校で、創立からの年数は85年余りです。学校は金山の遺跡に囲まれたような場所にありました。さびしい寒村であった相川が徳川時代になってから、金山で一躍脚光を浴びる歴史をたどったのでした。今は世界遺産の指定を受けようと運動が行われております。

私には村松も相川もどこか似ている感じがしています。街並みは決して大きくはありませんが、かつては時代を牽引した、輝かしく誇り高き歴史があります。そして時代の変化とともに今は静かにたたずんでいます。村松高校を地域の子どもたちを大切に育てる学校として発展させるために、微力を尽くしていきたいと思います。

今後ともなお一層のご厚情を賜りますようお願いを申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

村松高校同窓会総会に出席して

財務委員長 塚田 勝 (高8回)

平成21年度村松高校同窓会総会が8月22日(土)、村松町の新龍にて午後5時半より開催されました。当日は会場に103名の会員が集まり、東京同窓会からは深見、石黒、郡司、塚田の4名が出席、賑やかにスタートしました。相田同窓会長より、日頃の協力に感謝の意が述べられました。我が東京同窓会から会長代理で私より、7月の東京同窓会のお礼、ゲスト出演の柳家さん吉師匠を迎えての盛り上がり、そして、東京同窓会における若返りの努力と、母校の100周年に対する協力について挨拶をしました。続いて、小形学校長からは学校の近況として、近年、五泉・新津・新潟への生徒流出で大変厳しい状況ではありますが、今春の新入生を含め、450名の生徒が在籍していると報告がありました。

その後、議案審議に入り、平成20年度事業報告、決算報告、監査報告、そして、平成21年度の事業計画及び予算案審議が行われ、賛成多数で承認されました。引き続き、創立100周年記念事業の進捗状況の説明がありました。その中で、関谷委員長を中心に12名の編集委員で昨年9月にスタートした創立100周年記念事業の内容とその構成、配布範囲、そして、100年間それぞれの時代の特色を背景に、学校生活を過した生徒達の歴史を纏めたとの説明がありました。

以上で総会が終了し、午後6時半より懇親会に移りました。まず、五十嵐五泉市長よりご祝辞を賜り、続いて後援会顧問・県議会議員の澤野、宮崎両氏より、100周年の伝統と歴史についてのお言葉を頂戴し、評議員で五泉議会議員長の林氏の乾杯となりました。懇談会では、旧制中学校卒3名、旧制女学校卒8名の皆様方もおられ、お元気で賑やかに談笑されて居るのが印象的でした。

参加者の最年少は高校卒43回生で、全体的には18～24回生が中心で活躍しております。定時制の方々も5～6名参加されていましたが、東京同窓会でも皆様への積極的な声掛けが必要かと思います。

宴もたけなわになり、校歌・応援歌を全員で斉唱し、中締めは午後8時半、改めて100周年記念事業への関心の高さを実感した総会であった。



村松高校東京同窓会・第52回大会報告

広報委員 石黒 勝夫 (高14回)

平成21年7月4日正午から、竹橋のKKRホテル東京10F「瑞宝の間」に於いて松高東京同窓会第52回定期大会を開催した。母校からは、4月に着任されたばかりの小形賢治校長と事務局の熊倉洋子氏、同窓会本部から相田豊会長、浅田光雄副会長、100周年記念誌担当の関谷正中編集委員長、出演をお願いした村松出身の落語家・柳家さん吉師匠の来賓6名を迎え、会員104名が出席した。

定刻となり、青木敏和(高18)・林信子(高25)両幹事の司会で開始。杵渕政海実行委員長の開会のことば、鈴木多喜男会長の謝辞と挨拶があった後、相田同窓会長から「今年の新入生は、新津・五泉高校が1学級ずつ増やしたので心配したが、定員を満たしたのでほっとしている。先生方や同窓会によるPRや勧誘活動が報われたものと喜んでいる」と挨拶があった。続く関谷編集委員長から、平成23年に迎える母校創立100周年記念誌に対するご支援のお願いがあり、小形学校長からは「4月に着任以来、生徒達と気持ちよく挨拶を交わしている。

校舎も大規模改修を終え、430人の生徒達は明るい表情で勉学に励んでいる。教育活動も順調に推移し、就職活動もキャリア教育の成果が現れ始めているものの、経済不況の影響を心配している」と挨拶。

その後、総務委員会・財務委員会・広報委員会の各委員長報告を承認して第一部は終了。

第二部は落語家・柳家さん吉師匠の独演会。村松で過した子供時代から現在に至るまでのエピソードを面白可笑しく語り、予定時間もオーバーするサービスで会場を大いに沸かせた。

第三部は斎藤和男副会長の乾杯音頭で懇親会を開始。母校のこと、郷里のこと、知人友人等の消息を話しながら懇親を深めるうちに、恒例のお楽しみ抽選会も始まって賑やかに進行していった。最後に皆で校歌・応援歌を合唱、篠川恒夫幹事の手締めで和やかに閉会した。余勢を駆っての二次回も大賑わいであった。会員諸氏のご健在をお祈りし、再会を誓い合い散会した。

東京同窓会・第52回大会収支決算書

平成21年7月4日(土) 於 KKRホテル東京

収入の部					支出の部			
項目	内訳	人数	金額	合計	項目	内訳	金額	合計
①懇親会費		104名	8,000	832,000	①懇親会費		855,900	855,900
	男子77名		616,000		②2次会補填		9,800	9,800
	女子27名		216,000		③講演謝礼(さん吉さん)		50,000	50,000
					④本部対応費		10,500	10,500
②祝儀		6名		58,000	⑤準備費			95,163
	同窓会本部		50,000			会議費会館使用量	19,380	
	宮本光喜氏		8,000			総会案内に関する		
③会員寄付		1名		2,000		切手・はがき	59,050	
(敬称略) 塚田 勝			2,000			コピー	5,675	
						会報・資料送料	1,910	
						封筒等	9,148	
合計				892,000	合計			1,021,363
一般会計から補填				129,363				
総計				1,021,363	総計			1,021,363



校歌、応援歌の熱唱



さん吉師匠の落語に大笑い



柳家さん吉師匠の熱演



青木、林の両司会者

第 52 回 東京同窓会 出席者名簿

平成21年7月4日(土)

於 KKRホテル東京 10F

新潟県立村松高等学校東京同窓会

来 賓 (6名)	旧中学校 (1名)	高 校	高 校	高 校
村松高校同窓会	3 3 齊藤 和男	0 5 高濱つる子	1 0 朝倉 克巳	1 6 郡司 正大
会長		0 5 向山 律子	1 0 今井 孝宏	1 6 河野 良雄
相田 豊 様 (高9)	旧女学校 (4名)	0 5 山崎 豊吉	1 0 大橋 貞夫	1 6 服部 修治
副会長	2 5 一氏 愛子		1 0 近藤 尚志	1 6 森田 勝美
浅田 光雄 様 (高20)	2 5 近藤 昌子	0 6 畔田 昭義	1 0 新保 優	
幹事	2 5 佐藤 治	0 6 佐久間英輔	1 0 中川 善隆	
関谷 正中 様 (高6)	2 5 佐藤 玲子		1 0 真水 道子	1 8 青木 敏和
		0 7 加藤 喜七	1 0 宮沢 正由	1 8 齊藤 正義
村松高等学校校長	高 校 (99名)	0 7 深見 洋子		1 8 佐々木秀和
小形 賢治 様	0 2 杵渕 政海	0 7 宮川 裕皓		1 8 長谷川三男
	0 2 篠川 恒夫	0 7 八木又一郎	1 2 安部 實	1 8 広瀬 満子
村松高等学校事務局	0 2 樋口 一郎		1 2 今井 英雄	1 8 三室 茂和
熊倉 洋子 様	0 2 堀川 俊郎	0 8 岡部 ユキ	1 2 岩野 忻史	
	0 2 村川 五郎	0 8 片柳 ムツ	1 2 近藤 洋輝	
落語家		0 8 木村 孝子	1 2 高岡五百子	2 0 安中 信夫
柳家 さん吉 師匠	0 3 長谷川五郎	0 8 小出 博三	1 2 徳永 道子	2 0 三宅 紀子
	0 3 武藤 寛	0 8 佐藤 匡秀	1 2 山下 栄子	
	0 3 渡辺 八郎	0 8 鈴木 輝雄		2 2 五十嵐健夫
		0 8 高地 彰		2 2 伊藤 起子
	0 4 梶屋 庄佑	0 8 塚田 勝	1 3 金子 健二	2 2 落合 悦子
津川高校 (1名)	0 4 加藤 清治	0 8 長谷川吾一	1 3 波多野紀子	2 2 小泉 ミヨ
宮本 光喜	0 4 下野 文幹	0 8 治田レイ子		2 2 柴野 暢夫
	0 4 杉山 喬		1 4 石黒 勝夫	2 2 高橋 栄子
	0 4 鈴木 健司	0 8 村川 忠司	1 4 木村 寿一	2 2 滝沢 義則
	0 4 鈴木多喜男	0 8 山崎 輝雄	1 4 山田 俊治	2 2 濱田 守
	0 4 弦巻 等	0 8 山西愈佐子		2 2 平山 誠一
	0 4 二宮 文三	0 8 吉井 清		樋口 雄一
	0 4 山田 幸子		1 5 高岡 光夫	
	0 4 渡辺 嘉樹	0 9 阿部 勇		2 3 中嶋 久巳
出席者計—111名		0 9 石黒 四郎	1 6 芦川 靖子	2 3 永田 毅
		0 9 熊倉 富次	1 6 今井 一義	
	0 5 新井 康夫	0 9 増田 訓英	1 6 今井 貞夫	2 5 林 信子
	0 5 金子 鶴男	0 9 間藤 謙一	1 6 小黒 正恒	
	0 5 雲村 俊愷			

平成22年度 松高東京同窓会開催のお知らせ

◆日時 22年7月11日(日)

正午開会

◆場所 ホテル グランドパレス

千代田区飯田橋1-1-1

Tel : 03-3264-1111

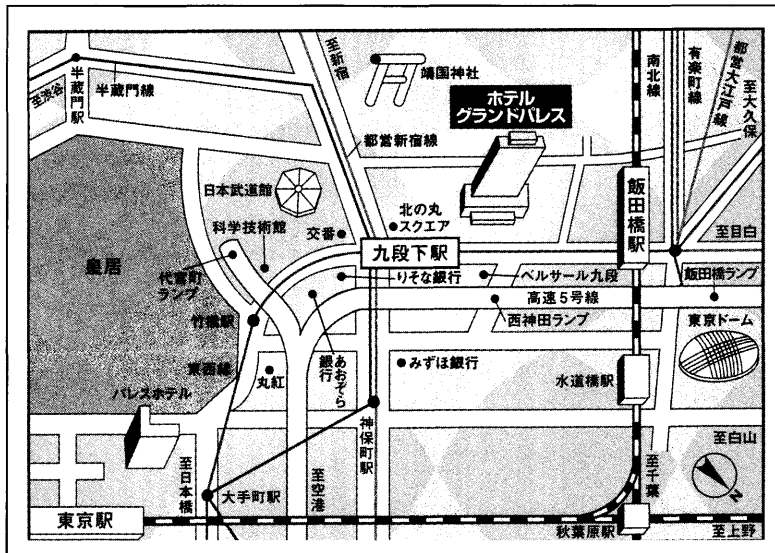
交通 ●地下鉄「九段下駅」

*東西線7番出口より徒歩1分

*半蔵門線・都営新宿線

3a出口より徒歩3分

●JR・地下鉄「飯田橋駅」より
徒歩7分



「喜寿」を迎えての センチメンタル・ジャーニー

亀山 知明（高3回）

かねてから、春・秋に各地の名勝・旧跡を共に旅してきた親しい同期の友人（根本・長谷川）、今年揃って「喜寿」の年を迎える。卒業後、東京で暮らすこと半世紀余り、これまで健康で来たこと、それを支えてきてくれた女房の内助の功への感謝、等を心の中に込めて、ふるさと新潟へセンチメンタル・ジャーニーの旅に出た。

新緑の濃くなって来た5月下旬、2泊3日の予定で。上越線で「トンネルを越えて上野駅……」と上京した3人、今回は東京駅発の新幹線“やまびこ”で会津若松経由にて新潟へ。これは通学に利用した磐越西線に乗りたいため。乗換えの会津若松の駅周辺は、江戸末期の激動の歴史の舞台、期待していた「会津若松23万石」の威風を伝える城下町の旅情は全く感じられなかった。早々にバスで市の北東にあたる飯盛山へ上がり、眼下に鶴が城を遠望した。その周辺には幕末の戊辰戦争で、城の炎上を見て「死」を選んだ白虎隊の墓があり、墓前には線香の煙があがっており、今も訪れる人の多さを感じた。長谷川君の縁者も白虎隊の一員であったとかで、その墓前に夫婦で線香をあげ手を合わせていた。そこに本当の日本人の後姿を見た思い。しばし140年前にタイム・スリップ。市の手で復元された“武家屋敷”は全く見るところがなかった。

再びバスで向った先の街道の山合いに、江戸時代の宿場の形態が覗える家並みの集落「大内宿」があった。当時から半宿半農の地、皆が力を合わせ代々その景観を大切に守って来たところ。周囲を1000m程の峰々に囲まれ、一筋の古街道の両側に茅葺きの屋根を連ね、どの家にも屋号がついていた。石積みの溝には山からの豊かな冷水が流れ、今でも生活用水に利用されているとか。軒先には素朴な土産物が並べられており、根本君はゴルフ友達に頼まれたとかで“里いもの茎”の干物を「ようやく見つけた」と買い求めていた。（根本夫人曰く「東京のスーパーで売っている…」いやいや「これは本物!!」などの一幕も…）。夕方の5時過ぎ市内に戻ったが、急に現代に戻ったような気がした。翌日の朝早く、次の予定地に向かうべく宿を出た。

待望の磐越西線に乗り最初の下車地の喜多方へ。昔ながらの蔵が多く、タクシーで案内された江戸末期から続く酒蔵で試飲した銘酒「弥右衛門」に惚れた根本、長谷川の両君は、息子達へのプレゼントにと配送手続きをしていた。全国でも珍しい「蔵造り寺」、「座敷蔵」などを見て、お待ちかねの「喜多方ラーメン」で昼食にする！地元の人達は、それぞれ地域ごとに最良の人気店があり、市内全域では130店余りあるそうだ。私達はタクシーの運転手が推す“源来軒”に入った。店主の話によると初代（中国人）は、約80年前チャルメラを吹きながら

本場仕込みのラーメン（当時は支那そばと呼ばれた）を屋台で売り、コシの強い手打ち麺と深いコクのあるスープが評判となり、店を構えるようになった。これが話題の“喜多方ラーメン”の元祖とか。東京で食べる喜多方ラーメン（種々あるが…）より格段の美味しさであった（お腹が超スイテいたこともあり…）。早速、東京の家族へ土産にと配送の手続きをする。

満腹の一行は福島を離れ、一路新潟へ向うべく再び磐越西線に。阿賀野川に沿って北進する列車は、各駅からの利用客も少なく、過疎化が進むローカル線そのもの。しかしながら、車窓からの眺めは、新緑が美しい奥阿賀野流域をパノラマで見ているようで、全体の景観は昔と全く変わることもなく息づいていた…ホッ。やがて、懐かしい駅名が…日出谷、鹿の瀬、津川と続く。津川は私の疎開先で、ここから6年間「村松」まで、朝6時8分発の列車に乗り通学した思い出の町。古くは、会津藩の水運の拠点として栄え、出城もあったところ。ご多分にもれず過疎化が進み、町村合併で町名も阿賀町となっている。ローカル線特有の列車交換時となり、暫し停車の合間に



3人で津川駅の看板を背に写真を撮り。新日本景勝地百選の一つになっている「阿賀野川ライン」の写真スポット“きりん橋”を遠くに眺め、私は当地で過した戦後の生活を偲んでいた。また偶然、私達の乗っている列車の運転手が村松高校卒業の後輩と分り、お互いに握手。津川駅を出た列車は、心なしか沿線の見所に差し掛かるとスピードを落とし、周辺の景観をゆっくりと堪能する事が出来、その好意に心の中で感謝。続く三河（長谷川君の出身地）、咲花（数年前、同期会で集まった温泉地）、五泉へと進んだ。

当時、高校通学に多くの同窓生が利用した、蒲原鉄道の五泉駅ホーム一帯は、当時を思い起こさせるものは全く無く、草ぼうぼうであった。JRの乗り降りも少なく時代の変遷を実感した。新津駅では、列車を運転してくれた後輩が、遠くから手を振って別れを惜しんでくれた。

新潟駅に到着した私達は、佐渡へ行くジェットフォイルに乗船するため市内バスで移動。根本夫人は好きなカラオケのレパトリー「新潟ブルース」で歌われている

“万代橋”は？と車窓を透かして辺りを見渡していたが、六連の美しいアーチからなる橋は、確認出来ずに残念そうな表情。……佐渡は 四十九里 波の上～……船は60分余りで両津港に到着。海上から見る佐渡は思ったより大きく見えた。乗り心地の余り良くないバスで、当日の宿泊先の相川へ。着いた旅館は真野湾の突端にあり、美しい夕日が見られるとかで有名な宿。当日のスケジュールは、「日の入り」をパソコンで調べて組み、予定通りの到着であったが天気が悪く、遂に見られず仕舞いで残念。皆既日食がある7月22日の天候も気掛りになって来た。

夕食の後、ロビーで地元有志の方々から「佐渡おけさ」「相川音頭」の踊りを見せて頂き、高校時代にグラウンドで踊ったことなど思い出し、3人共々大いに感動した。3人揃って川の字に寝ながら思ったことは、「共々元気で味わった今夜の情景は、お互いの人生の中で大きな至福の一コマ」であったと言える。

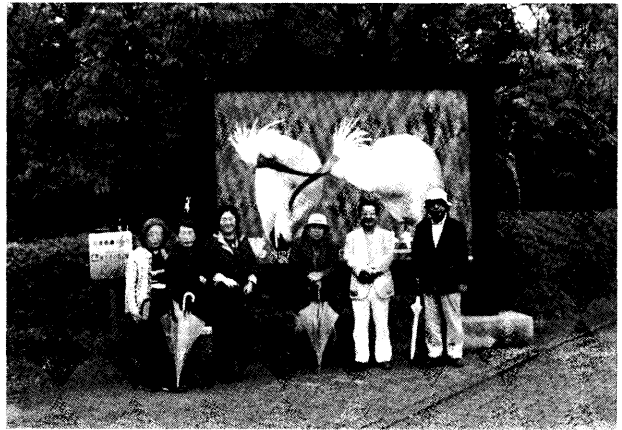
翌朝早々、手配しておいた大型タクシーに乗り、曇り空の下を島内観光に出発した。まずは、最盛期には、世界一の産出量を誇った江戸期の金山跡地へ。走る車の道筋にある「キツネ堀」の跡や多くの江戸無宿人達の坑内での排水作業を再現した様子などを見て、何か空しさを感じさせられた。次なる見どころ尖閣湾では、以前に見たノルウェーのフィヨルドとスケールの違いはあるものの、勝るとも劣らない海岸線の美しさを船から望むことが出来た。船が着いた所では、岩肌に咲くカンゾウを見



尖閣湾を望む岩壁に咲くカンゾウの花

つけた長谷川夫人が感嘆の声を発した（彼女は全国的なこの筋の情報に詳しい）。そして又、とぐろを巻いているへびも発見！我々の旅が吉と出ている証とか、うれしい。ロマンチストの根本夫人は、〇〇年前のTVドラマで一世を風靡した「君の名は」の主人公、真知子が付んだ相川の「真知子橋」を海上から眺め、当時を想起していた様子。その橋の上で記念写真をパチリ。シャッターを押してくれた土産物店の奥様「またお出で下さいね～」と……。タクシーの車窓からは、恵まれた気候・風土と共に、古くから開かれていた天領地ならではの豊かさを感じられるものが多々見受けられた。案内された大膳神

社の境内には、“橋かけ・らんかん”も付いている茅葺屋根の能舞台があった。室町以来の流人が持ち込んだ文化・能に島民は今でも親しんでいるようである。人影も無く、神主もその屋敷も無く、古めかしい延喜式の古社のような神社であった。



トキの看板を背に記念撮影

「トキの森公園」では、中国から贈られたトキを大切に育て、約130羽までに増やした昨年、10羽を大空に放した。島の空を自由に飛びまわるトキの姿には全く会えなかったが、保護センター内のゲージの中では多数のトキを遠望できた。季節の所為か羽は黒っぽく、私が勝手に抱いていたトキの美しさは見ることが叶わなかった。港への帰路、史跡になっている焼失した国分寺の礎石や、順徳帝の御陵などを見て、再びジェットfoilに乗り佐渡を離れた。

今回の旅は、いつも通りの3組の夫婦で出かけたが、お互い喜寿を祝う年でもあったことから、それぞれが一段と「深い思い出」を胸に刻んだ旅になった。これからは3組共々ウイズ・エイジングを目指し、オーケストラのトライアングル（三角形の金属製打楽器）のように、その美しい澄んだ音色を打ち鳴らしながら、これからの人生を歩んで行こうと思っている。



52回大会で応援歌熱唱

3年4組 古稀祝賀同級会

五泉市在住 関根 忠 (高12回)

十月十七日(土)午後三時二十三分、JR五泉止二輛車が到着。改札口で幹事数名が待ち構える中、どっと懐かしい顔ぶれが降りてくる。「おおっ!」「久しぶり!」などの歓声がひとしきり飛び交った後、ホテル出迎えのバスに乗車。しかし、会場の咲花温泉へは直行せず、まずは迂回して村松高校へ。正門前でバスを止め、降りてしばし母校の全容を望む。もちろん校舎は我々の時代のものではなく鉄筋の現代建築だが、正門は往時のままで、今や国の登録有形文化財だとか。前庭の松も当時の面影を残している。一同並んで記念撮影。再びバスに乗り込むと、往年の野球部主将U君の姿がない。捜しに行くと、彼は午後の陽射しの傾く中、かつて白球を追ったグラウンドに……一人立ち尽くしていました。

会場のホテル「佐取館」に集結したメンバーはちょうど二十名。ぎりぎりまで参加を検討しながら、どうしても都合がつかない無念の欠席者も数名。還暦の祝賀会以来の同級会であるが、実は正しい古希の年は来年であり、諸般の事情を考慮して一年前倒したものだ。

入浴後、六時から開宴。古希とは言うものの半数は現役、或いは第二の仕事に従事し、皆まだ若々しい。それぞれの近況紹介から最新情報の交換、往時の懐旧談、初めて明かす秘話などで歓声、爆笑相次ぐうちに心は一気に五十年前のあの頃へ。終戦後の混乱がようやく癒えた昭和三十二～三十五年三月が我々の高校時代(三年生の春に現天皇がご成婚)だが、校歌にあるものの当節では死語となった「質実剛健」「志操堅固」などの言葉が未だ残光を放っていた頃で、貧しいながら誰もが真摯な向上心に溢れ、互いに人生や夢を語りつつ切磋琢磨していた時代だったような気がする。

メンバーも極めて多士才々。各界で名をなした者も少なくないが、この席ばかりは皆、袴を脱ぎ捨てて自らを開放し、等しく一介の私人且つ六十八歳の少年少女に。最後には、校歌「普く照らす天つ日の…」を心を込めて斉唱。秋も深まる阿賀野川河畔の灯が窓外に揺れる夜、心ゆくまで往時の夢の回想に酔い、同級の絆の醍醐味を堪能し、青春の息吹と躍動を甦らせた古稀祝賀会でした。



村松高校 旧3年4組 古稀の会 於 咲花温泉 佐取館

楽しむ力

林 信子 (高25回)

一般的に「一年の計は元旦にあり」ですが、私にとっては8月15日がその日になります。故郷で一人暮らしをしている母のもとへ帰り、幼馴染や同級生達と再会したり、松高バレー部OB会に出席する日です。

私が参加し始めたのは、ようやく子供達が大きくなって手を離れ、私が1人で里帰り出来るようになった年からです。今年で13回目になりました。OB会が始まって37回になりますので、参加したのは1/3程です。でも、13年連続皆勤賞、1年に1度しかバレーボールに触りません。ボールが、まるで恋人でもあるかのような気分でドキドキ、ワクワクします。松高の体育館、今年もよろしくネ!

もういい年になりましたが、心は17才位のままで、参加者全員がその頃に戻り、いい汗を流します。ひとつのボールを見つめ、追いかけて、打ち上げ、拾うのです。窓から稲穂の香りを乗せた風が入ってくると、その時こそ、東京に居てはわからない快感が全身にみなぎります。とにかく楽しい、バレーボール大好き、松高ありがとう。先輩方ありがとうございます。後輩方ごくろうさま。地元の仲間達が仲良く、スクラムを組んでいてくれるお陰で、東京にいて幹事も出来ない私は、こうやって参加出来ます。年々、昼の部のバレーボール参加者が減って淋しいですが、夜の部の飲み会では、人数も増え盛り上がります。体力、気力、やや衰え気味ではありますが、不思議に楽しむ力はアップしているようです。この日が無事に終わり、3日程して五泉の実家を後にする時は、センチメンタルな気分にもなります。母の娘として楽しい時間ありがとう。また、来年も元気に帰って来られますように。OB会全ての人達が健康でいられますように。秋らしい気配を感じ、コスモスの花が見送ってくれます。心はいつも楽しむ力でいっぱい、人に感謝の気持を忘れずに、家族を大切に、また東京で仕事も頑張ってきます。

「38回目OB会目指して身も心もストレッチする事」この思いが1年間、私を支えてくれます。



第37回松高バレー部OB会



ヒガンバナ

鈴木 健司 (高4回)

平成21年9月4日の読売新聞夕刊の15面に、半頁を使って『100万本のヒガンバナ〜埼玉県・巾着田』と紹介記事が掲載されていました。見事なカラー写真が4枚も載っており、意欲をかき立てられました。

当方の事情を少々申し述べますと、巾着田は青梅市にあるゴルフ場往復の通り道ですが、プレーを終えての帰路では時間が遅く、彼岸花見物はありませんでした。

来年は私の「喜寿の年」に併せて、「結婚50年の年」です。今年と来年は、我々夫婦はいろいろな記念行事を計画し実施することになるでしょう。「よお〜し、そのはしりだ。別名の『曼珠沙華』は『天上に咲く花』の意なのですが、『曼珠』の発音は『万寿』に通じる。」と手前勝手にこじつけて、見物を決意しました。

9月25日午前、現地に夫婦で到着しました。

「巾着田」は蛇行する高麗川に囲まれた土地で、上から見ると巾着の様な形をしているとの事です。面積は、約17ヘクタールもある広大な土地です。ヒガンバナは100万本以上の花が咲き誇っているそうです。じゅうたんを敷き詰めた様な赤い花々は、まるで夢の国の花園にいます。花畑の周囲にあるシラカシ、ムクノキ、クヌギ、マユミ、コナラなどの木々の緑と赤色とのコントラストは見事です。

殆どが赤い花なのですが、ほんの少し白い花も咲いていました。赤と白のコントラストも美しいものです。持参したカメラで写真を撮りましたが、郵便



赤と白色のコントラスト

局の出張販売の絵葉書に魅せられて、買い求めました。

良い思い出になる花園散策になりました。これも『夫婦そろって、健康で元気に生活している賜物』と自己満足しています。立派な後期高齢者ですね。



つき抜けて 天上の紺 曼珠沙華……山口誓子

続々 魚、肴、さかな

加藤 清治 (高4回)

魚が健康食品として評価され、BSE(狂牛病)発生による牛肉離れ、新興国の所得向上などもあって、世界の魚肉消費は確実に増加している。魚の需要にこたえる漁獲量の拡大が一部魚種の資源減少を招き、漁獲量の制限へと拮抗しつつある。特にマグロ類でその傾向が顕著になっている。大西洋、地中海産クロマグロの輸出入全面禁止。中、西太平洋でメバチマグロの漁獲3割カット。東太平洋でもメバチマグロ、キハダマグロの段階的消滅など、マグロに関する漁獲規制は目白押しである。

近年、中国やインドが魚を求めて活躍し、市場でバッティングした日本の業者が買い負けるケースも報じられる。

世界的な魚の消費拡大は今後も続くと思われるが、日本では、このトレンドとは逆に消費者の「魚離れ」若年漁師の「漁業離れ」が、深刻な問題になり始めている。

08年に発表された水産白書によると、06年度に於ける日本人の魚消費量が、初めて肉の消費量を下回った。こんな状況下でも日本の研究、技術の水準は高く、世界のトップレベルをキープし、常に指導的立場にある。

クロマグロの完全養殖。マリアナ沖でのニホンウナギ親子の同時捕獲。鮭の養殖技術など世界の注目を集めている。話は変わるが、北海道では秋の味覚の代表という意味で鮭を「秋味」とも呼ぶ。この時期に日本で漁獲される鮭は、殆どが「シロザケ」であり、肉色は他の鮭より少々淡い程度で白身ではない。

川で孵化した鮭の稚魚は、塩水に体を慣らしながらゆっくり海に下る。海で塩水に馴染むと鮭は、餌を求めて回遊を始める。海洋で3〜6年生活した鮭は、重さも4〜6kgの親鮭に成長する。親に成長した鮭は、産卵の為に生まれた川に戻る。産卵が近づくで親鮭は、河口付近に寄り集まって集団行動をとるようになる。この段階では親鮭はもう餌をとらない。

北海道の秋は早い。8月になれば強い陽射しの下でも秋の気配が感じとれる。この季節には北から始まった秋味の解禁は南下を続け、11月には鮭が産卵する全ての川で解禁となる。鮭は、川を遡上する前に海で捕獲されたものが上質とされ「銀毛」と呼ばれる。銀毛は脂肪ののりが良く、味は最も良いとされている。海から川にかけ幾重にも仕掛けられた障害を逃れた親鮭は、産卵場所に向って死出の旅に出る。産卵、受精を終えた親は、体力を消耗しきって川の流れに身を委ねる。この下り鮭はホッチャリ(捨てるの意味)と呼ばれ「トバ(干鮭)」の原料として利用される。

海に囲まれ、豊かな漁場に恵まれた日本にとって、魚は貴重な食料資源であり、漁業の衰退は食の安定供給をも脅かしかねない。これを回避するには適切な資源管理が必要不可欠であると思う。

「天地人」と五泉の武将

五泉市在住 河野 良雄（高16回）

今年は、新潟県にとってビッグイベントが次々と開催され、うち続いた災難をバネに復興の意気込みを全国に発信した1年であったかと思います。

夏の甲子園の決勝戦で日本文理が発揮した執念の戦いは、越後魂の勇気と誇りと感動を日本中に与えてくれました。

また、トキの放鳥と「トキめき新潟国体」では、45年前の新潟国体と同じく、天皇・皇后杯を勝ち取り、これも越後人の底力を全国に知らしめるイベントでありました。

開会式では、五輪金メダリストの加藤沢男氏が、国体旗を掲げ行進をしました。愛宕中学校体操部で共に練習した私は、彼の非凡な才能を見つけ、新潟南高校へ導いた恩師と、人の数倍練習の虫になって技を磨いた、「天才とは努力の異名」との格言を実行した加藤沢男氏に越後魂をみる思いです。10月23日、愛宕中学校創立60周年の記念講演に講師として来られた氏と40年ぶりに再会し、はにかみ屋で、素直な性格は、昔と少しも変わらず安心しました。

来年3月、新体育館のこけら落としで、模範演技の筑波大学体操部を引率して来てくれる予定だそうです。

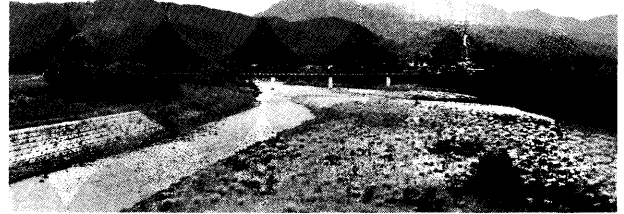
さて、私は五泉市内で、地場産業の絹織物の原料である絹を使って、シルクニットを製造しております。依然と業界は厳しさを増しておりますが、特に夏物に弱く、何とかクールビズに繋がるニットを作りたいと思っていました。

3年前に魚沼方面のある人から、カラムシ（イラクサ科の多年草）という青芋（アオソ）、苧麻（チョマ）をニットに使えないかとの話が持ち込まれ、カラムシのルーツを調べていくうちに「天地人」の世界にはまりこんでしまったのです。

原作の火坂雅志氏によると、上杉謙信の経済政策で、カラムシの栽培と越後上布の増産で、米を上回る収入が越後にもたらされたとありました。NHK大河ドラマで放映が始まると、上越市や南魚沼市には、観光バスや、県外車がどんどん入り、全国から観光客が訪れる事となりました。ならば、五泉はどうなのか、図書館で資料を調べ、小説「天地人」に出てくる場所や、米沢市にも足を運び、この目で確かめました。壮絶なドラマが五泉にもあったのです。

五泉城主であった甘粕備後守景継については、ドラマでパパイヤ鈴木が演じて、広報ごせんでも紹介されたため、広く市民の知る事となりましたので、ここでは、村松菅名荘を支配していた、菅名但馬守綱輔について述べてみたいと思います。名峰白山の左側に、神戸山と雷山がそびえています。戦国時代以前から村松には11カ所

雷山 神戸山 白山



の山城と、8カ所の館があり、管名氏は雷城主であり、又、石曾根の北のはずれ、木越近くの馬場館の主であったともいわれております。上杉謙信に仕え、関東出兵や川中島の戦いにも従い、謙信死後の後継者争い（御館の乱）では景勝方に従って、景勝や兼続から相当の信頼を得ていた事を窺がわせる書状が残っています。御館の乱で侵入し、雷城に攻め込んだ会津芦名勢が、一度は奪ったものの逆襲を受け、三川の将軍杉の隣にある、平等寺に逃げ込んだ残兵が、この戦いの経過と、30人殺したが、味方は50人殺されたとして、仲間の戦死者の名前を書き付けた落書が残っている。又、越中魚津城攻防戦にも参戦、敵方の動向や、今後の指示を仰ぐ内容の、兼続宛の書状が、国宝「上杉家文書」菅名綱輔書状として、米沢市上杉博物館に保管されている。しかし、新発田重家攻めで影勝出陣に従い、新発田城を包囲するが難攻、一旦人馬を休ませる為、引き下がった所を急襲され、命を落とした。場所は、新発田市法正橋で、近くに城山温泉がある。

綱輔死後の管名荘と、雷城は、景勝の直臣、丸田周防守や、千坂対馬守へと知行が移っていくが、会津・米沢への上杉家の転封に従った菅名一門は、米沢藩主として生き続けていく。

さて徳川の時代に入り、村松はどのように変わっていくか。此の度、村松お城の会では、「村松の歴史と風土」を10年がかりで完成し発刊の運びとなった。次世代に語り継ぐ貴重な資料となりそうで、是非ご購読をお願いしたい所存です。

終わりに、ケネディ大統領が日本で最も尊敬する政治家として、上杉鷹山を挙げたことは有名です。どこで大統領は、鷹山を知ったのか？作家童門冬二氏に依ると、内村鑑三が明治末年、分野別に代表的な人を5人選び英語で書いた「代表的な日本人」の中で、上杉鷹山を紹介し、それを大統領が読み、日本の記者団に答えたものだそうです。謙信の義・兼続の仁愛、厳しい雪の風土が生んだ越後魂が大河ドラマを通して日本中から世界へと広がり、混沌とした世の指針となる事を願うものです。

「村松の歴史と風土」

問い合わせ先 村松お城の会事務局（新滝方）

TEL：0250-58-7191

まぼろしの村松城

～現存するのは稲荷神社の彫刻だけ～

高地 彰（高8回）

百四十年前の越後村松藩堀家三萬石は存亡の危機にありました。河合繼之助と官軍との交渉が不首尾に終わったことから、村松藩も藩論を二分する大事に至るのですが、最終的には村松のお城も焼討ちとなり、瓦一枚残すことなく維新時に消失しました。

時の筆頭家老堀右衛門三郎直傳様（同級生堀直昭君の御先祖）が責めを負い、ひとり切腹となりますが、藩が最終的に新政府側に恭順したことで、その後の村松は越後五藩の中でも歩兵第三十聯隊の誘致や日露戦争戦勝記念の村松公園造園などで重く扱われてきました。

ところで焼き拂われて姿を消した「村松城」は平城ながら見事な佇まいを持っていたといえます。特に隣接する南御殿は京都の桂離宮を模し、黄金分割を取り入れた優美な設計であったことが、お城の會の調査と研究によって明らかにされました。これはその後模型が完成した

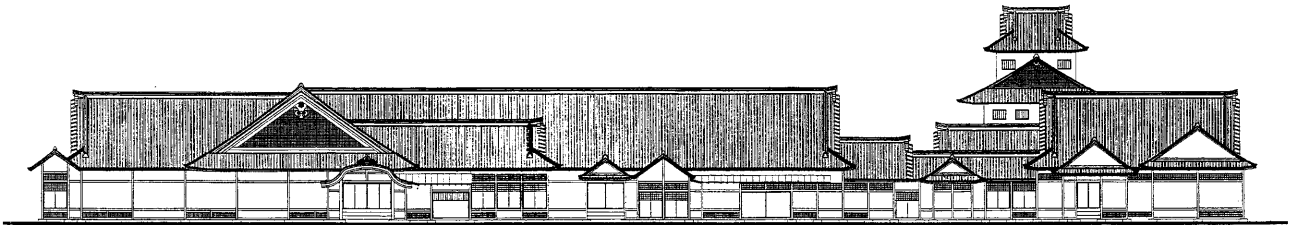
ことで良く知られています。

百分の一の模型は折にふれて郷土資料館に飾られますが、その出来栄は極めて精緻で忠実に再現されたものと高く評価され、新潟日報にも大きく載りました。

ただし、現実にはその優美な面影を残すものは何一つ残っていません。ただひとつ、西公園と呼ばれる一角に「稲荷神社」の小さな祠があり、そこの彫刻が唯一現存するお城の貴重な遺品と言われます。これは「城址稲荷神社」として石垣に囲われた一隅に「稲荷神社周刻～江戸末期の作で石川藤吉と伝わる」という説明書きの碑が立てられ、保存してありました。

お城の會では精緻な図面に基づいて模型を作りましたが、そのときの見事なものを縮尺でお目にかけましょう。

これは平成十年六月に村松町建築士会 商工会青年部の制作によるものです。平成十年の「松城會」の席上で披露されたときはみな様に驚きの歓声を挙げたものでした。関係者は「次は本物のお城を作ろう」と意気込んでいましたが……。



上図は、村松町建築士会と商工会青年部により平成十年六月に作成された「村松城絵図」（十枚綴り）から抜粋した、「村松城東側立面図」である。

来年、ふるさと新潟で交流しましょう！

—東京新潟県人会 100周年記念事業のご案内—

石黒 勝夫（高14回）

明治の初めごろ、新潟県の人口は全国一多かったといいますが、その後の我が国の急速な工業化で、主に農家の次三男がふるさと新潟を後にして上京し、都会ではあまりやる人が少なかった風呂屋さんや豆腐屋さんなどを始める人が多かったそうです。朝早く、夜遅くに冷たい水作業の辛い仕事ですが、新潟県人独特の根性と粘り強さで、それによく耐えたのでしょう。

同郷のつながりから親睦を深め、助け合っていく組織として生まれたのが東京新潟県人会です。明治43年のことです。その初代会長となられたのが新発田市出身で大倉財閥の大倉喜八郎氏です。

その東京新潟県人会が今年、創設100周年を迎えます。東京新潟県人会では、この大きな節目に、国内外の新潟県出身者が新潟に集まり、地元県民の皆さんとの交流を深める中から、先人のご苦勞に思いを馳せ、感謝しつつ、将来に向かっての夢と希望を子々孫々に伝えてい

くと共に、ふるさと新潟へのご恩返しとして、新潟県と一緒に記念事業を計画しています。

一人でも多くの皆さんのご参加をお願いします。

○日時：平成22年9月25日（土）～26日（日）

○場所：朱鷺メッセ（新潟市内）

○主なイベント

- ・新潟県人会と県民の大交流会
- ・にいがた物産展
- ・芸能大会
- ・特別公演 オペラ「夕鶴」
- ・朗読コンサート
- ・講演会
- ・米村でんじろう科学教室
- ・映画上映
- ・その他

○入場無料。抽選で賞品も当たります。

詳細は、東京新潟県人会・事務局まで

（担当：石黒勝夫（14回）TEL:03-3832-7619）

村松大火をふりかえる

近藤 洋輝（高12回）

村松大火に関する記事は、「村松万葉」へ昭和62年に一文を書いたが、今改めて書いてみたい。

太平洋戦争終結後9ヶ月足らずの昭和21年5月8日に、村松大火は起き、約1300棟が被災した。現五泉市の村松地区に関する記録（円は当時の値）によると：

午後6時半頃、高札小路の鮮魚商から出火した火事は、折からのだしの風（東南風）に煽られ、当時横町にあった花火屋の火薬庫に引火し、被害がさらに拡大した。翌9日午前2時半頃ようやく鎮火となった。罹災所帯数 1,208。罹災人口 4,000。死者 2。負傷者 59。焼損棟数 1,337。

焼損面積 40,977坪。損害額 16,541万円。

個人的には、炎がまっかちに燃え上がり、火の粉が舞う夜空をみて歯がかみ合わないほど震えていたことを強烈な幼児体験として記憶している。実家は火元の北東方向にあって当初は安全かと思われたが、風向きが変わってあとから火がまわり、全焼したところで庭に隔てられた隣家へ延焼せずには止まった。旧村松町は、時代的にも規模的にも戦災にあったと同然の被害であった。

今ふりかえると、大災害となった二大原因のひとつは、当時の消火が極めて旧式であったことにある。このような火災は、消防の技術も体制も高度に進んだ現代日本では全くありえない。当時の消火は江戸時代と大差ない人力の手押しポンプにより、川の水による作業であった。子供の頃、4月の花見の時期に消防演習が行なわれ、各分団が標的を早く吹き飛ばす競争を見学したものであるが、そのときにもまだ手押しポンプが主流だったように記憶する。村松大火の悲劇は、少し前であれば、旧陸軍兵営跡から進駐軍が駆けつけて当時先端の消防活動を展開したかもしれないが、撤退した後であったことだと、その当時聞いたことがある。

もうひとつは、上記記録でも「だしの風」と称している、「フェーン現象」で火災が発生したことにある。私は、以前、気象庁で数値予報モデルの開発などに携わった。その頃、以前から関心があった、昭和21年当時の記録を調べた所、昭和23年までは、3時と15時の天気図が残っていた（その後は、9時と21時の天気図が印刷されるようになった）。そこで、村松大火前後の気象を調べてみた。昭和21年5月7日午前3時には、中国大陸の徐州（北京と上海の中程の都市）付近に1002ヘクトパスカル（当時はミリバール）の低気圧があり、7日午後3時には、黄海（朝鮮半島の西方）に出て、996ヘクトパスカルに発達し、大火当日の8日午前3時には、朝鮮半島の東、日本海上北緯38度、東経132度付近に同じ示度のまま移動した。このとき、高田測候所の観測（後の上越市）では、平年より10℃高い南の風、新潟地方気象台の観測では6℃高い南東の風となってい

る。さて、出火に近い午後3時の観測では、低気圧は、1002と少し衰えたものの、日本海の中央に位置しながら、北東方向に進みつつあった。高田では、平年より5℃高い22℃で南の風、新潟の気温は不明（欠測と思われる）であるが、南東の風である。村松の記録には、正式の気象官署の観測ではないが、出火当時南東の風で、風速は毎秒8m、湿度は50%とされている。翌日9日には、この低気圧はすっかり衰え、日本海には高気圧が張り出してくる。村松にとっては、この低気圧の進行上で、8日の夕方丁度フェーンが最も強まるタイミングという意味で最も危険なタイミングで火災が生じたことになる。一度火災が生じると熱せられた空気は急速に上昇し、周囲からは新鮮な空気が吹き寄せるため、火勢は一層強まる。もともと風がある程度吹いている場合には、火炎旋風と呼ばれる渦が生じ局所的に強い風が吹くことが、関東大震災の両国被服廠（しょう）跡や、室内実験の検証などで示されている。村松大火でも火薬の引火以外にも火炎旋風が生じていた可能性がある。

一般に山岳を越えて吹き下りてくる局地風はおろし風と呼ばれ、地方により呼び名が様々である。冬などに山岳から吹き下りる北よりの冷たい乾燥した強いおろし風は一般にボラ（本来は、クロアチアでの北東風）と呼ばれる。

一方、高い山岳に湿った空気が上がりながら雨を降らせた後、山岳を越えてくるようなおろし風は一般にフェーン（本来はアルプスの北側に生じる、南からの暖かい乾燥した強風をいう）、またそのような現象はフェーン現象と呼ばれる。越後山脈を超えてくる、春先に多い、生暖かい風はフェーンの種類であり、村松などではだしの風と呼ばれている。日本海を低気圧が南西から北東に通過していく場合や、台風が同様のコースを通る場合、気圧の中心に向かって、空気は反時計回りに回りながら、地表による摩擦によって中心に引き寄せられるようにらせん状に吹き込む。太平洋側からの湿った空気は、高い山岳を越えるまでに、気圧の低い高度に上がるに連れて気温が下がるが、同時に、空気に含まれる水蒸気は気温が下がることにより凝結して雨を降らせ、この凝結の際に熱を発するため、気温の下がり方が幾分抑えられる。ところが雨を降らせて乾燥した空気が山岳を越えて気圧の高い平地に下りてくる場合は、単に気圧差により気温が上がるだけであるため、太平洋側平地での気温より数℃～10℃高い気温となる。しかも、乾燥した強風で、一度出火すると火のまわりが速い。現在はそのような場合は、異常乾燥注意報などが発令され、消防署が地域に注意を喚起してまわるような体制が整っている。

海洋研究開発機構 特任上席研究員

日本百名山・奥穂高岳

阿部 勇 (高9回)

シルバー連休(9月19日～23日)を利用し、人生の節目である古希の思い出として、奥穂高岳登山に山友達3名で挑戦した。穂高連峰は北アルプスを代表する岩峰で、最初は友人も不安が先立ち、色よい返事をして貰えなかった。しかし、詳しく山行の計画を立て、二度三度と説明するうちに納得出来て、行動を共にすることとなった。

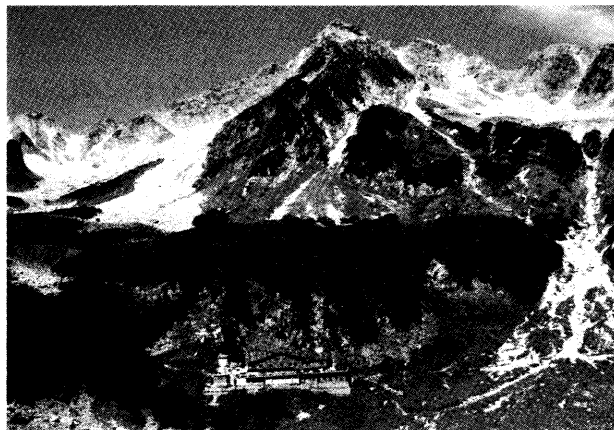
初日の9月19日、仙台発22時40分の夜行バスで松本に向け出発する。翌朝、6時半に松本駅に到着し、天気は快晴なり。ここで松本電鉄に乗り、終点の新島々駅で下車し、上高地バスターミナル行きのバスに乗る。連休で道路は大渋滞になっており、通常の3倍を要してバスターミナルに到着したが、12時の昼食タイムになっていた。

ここが今回の出発地点で午後1時、いよいよ登山開始。河童橋を左手に見ながら、梓川に沿って平坦な登山道に行く。明神～徳沢～横尾と3時間歩いて午後4時、今日の宿の横尾山荘に到着した。ここは温泉付きの山荘で、明日からの強行軍を考慮して、早目に休眠をとることにする。この横尾山荘は、穂高岳と槍ヶ岳登山の分岐点にあたり、年間を通して登山者が溢れている。

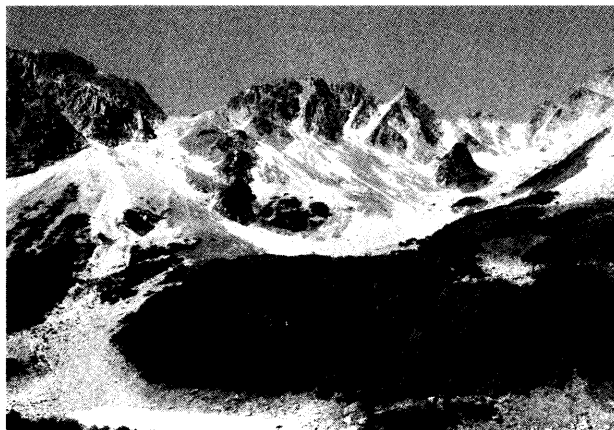


仙台の山友達と横尾山荘前にて 中央が筆者

さて3日目(21日)の朝、今日も快晴なり。いよいよ標高差1,600mを8時間かけて登る厳しい目を迎えた。早朝6時、心構えも新たに出発する。屏風岩を左手に見て進み、本谷橋を経て9時半、涸沢小屋(2,300m)に到着する。そこからパノラマコース～サイディングラード(厳しい登り)を経て午後2時半、今日の宿の穂高岳山荘(3,000m)に到着し、チェックインを済ましてから穂高連峰の最高峰・奥穂高岳(3,190m)を制覇した。山頂からの展望は見通しが良く、10日ほど前のヘリコプター墜落事故現場のジャンダルムは目前にあり、槍ヶ岳、常念岳等3,000m級の山々が見事な眺めであった。



手前・涸沢小屋 後方・北穂高岳



サイディングラードと中央は涸沢岳 左が奥穂高岳



奥穂高岳山頂にて 左は筆者

シルバー連休で登山者が予想以上に増え、350人の山荘の定員に対し800人が押し寄せたので6畳に12名、つまり2人が畳1枚の状態で休むことになった。山荘の廊下、食堂、布団部屋など、全てがビッシリと隙間無く超満員であった。

さて、4日目(22日)の朝は、宿を6時に出発して往路を戻る。9時間かけて上高地バスターミナルに到着し、そこからバスと電車を乗り継いで松本駅に着き、夜行バスを利用して、5日目(23日)の早朝6時半に無事仙台に帰着した。

箱根仙石原のススキの原

新保 優 (高10回)

箱根の仙石原のススキは、秋を告げる風物詩として、テレビや新聞などに毎年写真が登場する有名な観光スポットである。

10月の末に、このススキの原と湿生花園に行ってきた。ススキは所詮かやであり、子供の頃に飽きるほど見ていたかやの原を、わざわざ見物に行くとは以前なら夢にも思わなかった筈であるが、これは加齢による心境の変化である。

ススキの原は仙石原の東にある、台ヶ岳の麓に広がっており、ほぼ北向きの緩い傾斜になっている。500haはありそうなこの広い原野は、西側が狭く東側が広がった三角形をしており、その下に国道が走っている。そして西側の、国道に接した三角形の頂点に当たる所から、ススキの原のほぼ中央を通る遊歩道が、山に向かって真っ直ぐ伸びている。



仙石原の景観

この遊歩道は1km程もある緩い上り坂で、幅が3m位あるが、至るところに大小の岩が突き出ており、景色を見ながら歩くのは少々危険である。ススキは人の背丈を越えるくらいに伸びているが、遊歩道からの見晴らしは良く、特に原野の全体が見晴らせる場所に立つと、地形に沿ってうねったススキの原がはるか先まで続き、その広さに圧倒される。そして無数の穂が風にゆれている様子は、田舎のかやの原とは比較にならない壮観である。

私が行ったのは平日の夕方であったが、結構人で賑わっていた。我々のような熟年層の他に、若い女性やカップルが目だった。ロマンチックな観光スポットとして紹介されているのであろうが、むしろハイキングコースと呼ぶのがふさわしい、健康で開放的な場所である。

なお、仙石原のススキ野の夕日はアマチュアカメラマンにとって見逃せない撮影ポイントだそうである。一眼レフを手にしたカメラマン達があちらこちらでシャッターを切っていた。また愛犬を連れた老夫婦や中国人観光客の姿もあった。

毎年春先には、火を入れてこのススキ野を焼き払い、景観を守っている。そのためか、他の植物の種類は限ら

れるようであった。うどの実と、黄あけはの幼虫を乗せたししうどの冬葉が目をつけた。遊歩道の周りには、あざみや野菊の花が咲いていた。

観光用の無料駐車場はここからかなり離れており、所々に食堂や売店のある、林の中の道を1kmくらい歩くことになる。急ぐ時には不便であるが、これを散策ルートとして楽しむこともできる。周りの木々はそろそろ紅葉が始まっていて、どうだんつつじの鮮やかな赤が印象的であった。

お便りの中から

大岩 信也 (定昭34卒)

前略 失礼致します。

今回も、松高東京同窓会の文書をお送りくださり誠に有難うございました。その度に、半世紀前にもなる母校や村松の風景、そして当時の生活を懐かしく想い出しております。

出来れば私も、皆様の仲間に入れていただきたいのですが、どうしても体調の具合でそれが出来ませんので、どうかお許し頂きたいお願い申し上げます。

事務費の一部にもなりません、自分の気持としてはほんの小額を同封いたしました。

漏れ聞くとによりますと、「村松町」が消えて仕舞ったそうですね。それだけに「村松」という漢字二文字に哀愁すら感じます。同窓会の意義と有り難さが、身にしみます。今後とも益々発展されますよう心より願っております。

12回生渡辺厚子さん快挙!!

徳永 道子 (高12回)

統計の最高荣誉である「大内賞」を栃木県で初の受賞をした渡辺さん。大内賞は、大内兵衛氏が1953年に創設し、国内の統計の進歩に研究、実務などで貢献した個人や団体に与えられる。

渡辺さんは、統計調査員として39年間、国勢調査や工業統計調査など169回の調査に従事。市統計推進協には71年の創立から携わり、調査員の確保や育成に力を注ぎ、現在、小山市推進協の会長を務めている。

本人は受賞の一報を聞いて「本当に私でいいのかと思ったが、立派な賞を貰えて嬉しい」とコメント。又「普通の主婦である私が賞を貰えた事は、他の調査員の励みになると思う」と、後進の活躍にも期待を寄せている。

下野新聞参照)

同級生である渡辺さんの素晴らしい受賞の一報を聞き、自分のことのように嬉しかった。39年間という長い間、地道に続けてきた彼女の努力は素晴らしいものである。

彼女に連絡した時に「ただ、ずっと続けて来たからよ。縁の下の力持ちが認められたのね。……と。本当に継続は力なりである。心より おめでとう!!」

第12回親睦ゴルフ大会報告

平成21年10月29日(木)恒例にしている松高東京同窓会の第12回親睦ゴルフコンペが、埼玉県の入間カントリー倶楽部に於いて開催された。

当日は朝から快晴に恵まれ、皆さん日頃の腕前を発揮してやろうと、キリリと引き締まった表情で集合してきた。はるばる新潟から前日に乗り込み、元気に参加された間藤氏始め、今回初参加の今井英雄(高12回)氏、佐々木秀三(高12回)氏など10名が勢揃いし、8時28分に3組でのスタートとなった。成績は下記の通りであるが、東京同窓会の中には腕が鳴って仕方が無いという会員が、まだまだ多く居られる筈である。奮ってご参加下さいますようお待ちしております。

懇親会の席上、松高東京同窓会親睦ゴルフ会の会長に亀山知明氏が新しく就任され、次回から更なるメンバー増強を願い、新しい出発となった。楽しい談話と表彰式を終え、名残を惜しみつつ解散しました。

いつも亀山氏、吉井氏のご尽力には感謝申し上げます。

成績(敬称略)

優勝・金子鶴男、準優勝・間藤謙一、3位・石黒勝夫

参加者名(順不同・敬称略)

1組 亀山知明、金子鶴男、吉井 清

2組 片柳ムツ、大橋貞夫、石黒勝夫

3組 間藤謙一、佐々木秀三、今井英雄、佐藤 克



スタート前に記念撮影

第13回松高東京同窓会 親睦ゴルフ開催のお知らせ

平成22年4月8日(木)、入間カントリー倶楽部に於いて第13回親睦ゴルフ会を開催致します。

参加ご希望の方は下記までご連絡ください。

吉井 清 (高8回) Tel&Fax: 042-527-6482

亀山 知明 (高3回) Tel: 042-572-5096

——個展のお知らせ——



爪木崎(伊豆) F6



河津桜(伊豆) F8

第12回 小出博三氏(高8回)油絵展

■会期 '10/3月7日(日)~3月13日(土)
AM11:00~PM7:00 最終日はPM5:00まで

■会場 東京交通会館B1(シルバーサロンA)
千代田区有楽町2-10-1 Tel. 03-3215-3826
JR線 有楽町駅 京橋口 下車正面
地下鉄 有楽町線 有楽町駅 下車A8出口

●アトリエ● 〒274-0812 船橋市三咲7-22-20
Tel. 047-448-9632

◎ 会員の皆様が催し事などの告知がございましたらご相談ください。6月の大会号掲載は4月初旬に締め切り。新春号に掲載の場合10月末が締め切りになります。

〒158-0094 世田谷区玉川4-20-8 大橋貞夫
Tel & Fax: 03-3709-1570
Email: sadao-o@gb4.so-net.ne.jp

2009 年、国内の主な出来事

- 東証大納会終値 8,859 円 56 銭
- 1 月 03 日・第 85 回箱根駅伝は東洋大学が初の総合優勝
05 日・米 1 ドル=92.03 円 日経平均株価 9,043.12 円
12 日・新成人過去最少の 133 万人、男性 68 万・女性 65 万
13 日・倒産最多 1 万 2,681 件・負債総額 11 兆 9,113 億円
20 日・コンビニ売り上げ (7 兆 8566 億円) 百貨店抜く
- 2 月 17 日・中川昭一財務・金融相 (55) 17 日夜に辞任した
G7 閉幕後の記者会見で醜態を晒した責任による
後任は与謝野経財相が兼務
- 23 日・商工ローン SFCG 破綻、負債総額 3380 億円今年最大
上場企業の破綻は今年 10 社目
- 27 日・愛知県豊橋市南大清水町のウズラ農場で高病原性鳥インフルエンザウイルス「H7 亜型」(1925 年以来 84 年ぶりの発生) が検出、ウズラ 28 万羽を殺処分へ
- 3 月 03 日・小沢氏秘書ら逮捕・西松建設トンネル献金疑惑
10 日・日経平均株価バブル後最安値 7054 円 98 銭
13 日・全国で最も早く福岡市でソメイヨシノが開花
24 日・第 2 回 WBC は日本が韓国を 5-3 で破り 2 連覇
28 日・ETC 装着車への新料金割引がスタート上限 1000 円
29 日・千葉県知事選は元衆院議員の森田健作 (59) が当選
- 4 月 02 日・センバツは青峰 (長崎) が花巻東 (岩手) を 2-1 で下し初優勝
- 5 月 07 日・東京電力柏崎刈羽原子力発電所 7 号機が 9 日にも運転再開される (1 年 10 ヶ月ぶり)
- 5 月 09 日・森光子「放浪記」の主演 2000 回 (帝国劇場) を達成
- 5 月 16 日・民主党代表選挙は鳩山由紀夫が岡田克也に 29 票差で勝ち代表となる
- 5 月 20 日・国内総生産 (GDP) 年率 15.2% 減少、戦後最悪
- 6 月 12 日・鳩山総務相 日本郵政の西川社長続投に反対し更迭
- 6 月 13 日・プロレス・ノアの社長でプロレスラーの三沢光晴氏
試合中にバックドロップで頭部を強打し死亡
- 6 月 18 日・脳死を人の死とする臓器移植法 A 案が衆院通過
- 7 月 12 日・東京都議選民主 54 議席獲得第 1 党になる
自民 38・公明 23 議席で過半数 (64 議席) 割れ
- 17 日・北海道大雪山系トムラウシ山と美瑛岳で 10 人死亡
- 21 日・衆院は 21 日午後解散 8 月 18 日公示、30 日投票
- 21 日・中国地方豪雨、山口県防府市真尾の特別養護老人ホーム「ライフケア高砂」の裏山から土砂流入 3 人死亡 4 人不明など山口・鳥取 2 県で死者不明 17 人
- 22 日・皆既日食日本で 46 年ぶり、午前 11 時前から鹿児島県トカラ列島・奄美大島などで起きたが、悪天候のため直接観測は不可
- 8 月 01 日・東京湾アクアライン通行料 800 円、2011 年 3 月まで
- 03 日・裁判員裁判の第 1 号事件の選任手続きが始まり午前 10 時 38 分裁判員 6 人、補充裁判員 3 人選任、公判は午後開廷、今年 5 月足立区での隣人殺人事件
- 8 月 11 日・静岡県沖地震・震度 6 弱、負傷者数 110 人、東名高速道路は牧之原 SA 付近で路面崩落・上下通行止め

- 8 月 24 日・第 91 回全国高校野球選手権大会は甲子園球場で決勝戦が行われ、日本文理・新潟は中京大中京・愛知に 9-10 で惜敗
- 8 月 30 日・第 45 回衆院選は民主党が過半数 (241) を上回る 308 議席で大勝、自民は 119 議席で惨敗
- 9 月 16 日・午前、麻生内閣総辞職 午後、民主党の鳩山代表は衆参両院で第 93 代首相に指名、鳩山内閣今夜発足
- 9 月 17 日・8 月 8 日覚せい剤取締法違反で逮捕された酒井法子保釈金 500 万円で 17 日午後保釈
- 9 月 18 日・9/11 国産 H2B ロケットで打ち上げられた日本の無人宇宙船「HTV」が国際宇宙ステーション (ISS) に到着、日本の実験棟「きぼう」とドッキング成功
- 10 月 02 日・東京 2016 年五輪落選、リオデジャネイロに決定
- 10 月 03 日・トキ 9 月 29 日の第 2 回放鳥から 5 日目で全 20 羽がゲージ外へ (1 羽保護)
- 10 月 04 日・中川昭一元財務・金融相急死、死因不明病理検査へ
- 10 月 17 日・加藤和彦 (62) 軽井沢のホテル浴室で首吊り自殺「帰って来たヨッパライ」「あの素晴らしい愛をもう一度」などのヒット曲がある
- 10 月 19 日・医療従事者に新型インフルワクチン接種始まる
- 10 月 20 日・日本郵政の西川社長が正式に辞任表明
- 10 月 20 日・世界初の青いバラを 11 月 3 日から首都圏などで売り出すとサントリーホールディングスが発表
- 10 月 22 日・2,180m から 2,500m に延伸された成田空港の B 滑走路が本格運用を開始
- 10 月 28 日・24 日八丈島沖で転覆した漁船「第一幸福丸」から 4 日後 3 人を無事救出、船長は死亡、4 人行方不明
- 11 月 07 日・2009 年度プロ野球日本シリーズは巨人が日ハムを 4 勝-2 敗で下し 7 年ぶり 21 度目の日本一
- 11 月 10 日・俳優の森繁久弥、96 歳で老衰のため死去
- 11 月 10 日・2007 年 3 月、英国人女性リンゼイ・アン・ホーカーさんを殺害した市橋達也 (30) 容疑者を逮捕
- ☆ 校正、印刷等の都合で 11 月~12 月は割愛させていただきます

編集後記

今回は、「天地人」人気から五泉、村松の武将の話や歴史、かつての村松城再現の努力が続いている会の話など、郷里に因んだ原稿をお寄せいただき、今更ながら百年を迎える母校の長い歴史に想いを馳せている。村松藩の土壌から培われた松高の伝統は、旧中から発して将来まで永遠に続くことを願い、切に祈るものである。

郷里の経済活動を愁う向きもあるが、優秀な人材を育成せんと母校や地域関係者の継続的な努力には心より敬意をささげ、郷里が人材の宝庫となることを願う。

原稿を募集しております。

広報委員会 記

158-0094 世田谷区玉川 4-20-8 大橋 貞夫
E-Mail: sadao-ogata@gb4.so-net.ne.jp

平成 22 年 1 月 第 48 号

表紙の題名・題字は佐伯益一氏 (旧中 27 回) 書

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

新潟県立村松高等学校 東京同窓会事務局

〒201-0005 狛江市岩戸南 2-14-14

TEL & Fax : 03-3488-2117 (石黒)